

～ 理事長退任の挨拶～ 谷口 奈保子

小学生の子供を育てながら知的障害者のための「社会教育活動」にボランティアとして関わり始めたのは30年前のことでした。その時に、初めて知的に障害のある人たちと出会ったのです。

しばらく活動を続けているうちに、私の中に一つの疑問が湧いてきました。それは、彼らの社会教育とは、普段の地域生活を通して一般市民との自然な触れ合いの中で培われるものではないかということでした。ところが、我々地域住民には彼らがどこで暮らし、どこで働いているのか全く見えないのです。同じ市民でありながら、このような状態はとても不自然だと納得ができませんでした。この疑問が、彼らを「護る福祉」から「社会に押し出す福祉」への転換をはかるきっかけとなり、当時の大学の先生や学生の協力の下、1983年に余暇活動の場「たまり場ぱれっと」がスタートしたのです。

ボランティアの若者たちは意欲的でした。使命感に燃えていました。社会を変えなければ障害者の社会参加は望めないと、卒業後もぱれっとの職員として、たまり場活動に留まらず、働く場、暮らしの場を彼らのニーズに合わせて広げてきました。今ならごく普通のことでも、ソーシャルビジネスという言葉が無かった26年前は、知的障害者がクッキーの製造・販売を仕事とすることがとても考えられなかった時代でした。「当たり前社会」に一步近づいたのです。

そして今、世代交代の時がきました。次世代にバトンタッチです。社会を変えていこうと努力してきたぱれっとの仲間から、これまでぱれっとが大切にしてきたものを引き継ぎながら、新しいぱれっとを創ろうと名乗り上げた新理事長相馬宏昭を中心に、全職員を始めぱれっと関係者は、今後もしっかりと社会変革を進めていきます。

皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

前理事長 谷口奈保子